

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針

Basic Policy for the revitalization in
Hyogo Area of Osaka Bay



2023年3月

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化推進協議会

～持続可能なベイエリアの実現に向けて～

1 基本方針策定の目的

- ◆ かつて日本の産業を支え、経済活動の基軸としての役割を果たしてきた阪神・淡路ベイエリアは、産業構造の転換や、バブル崩壊、阪神・淡路大震災、リーマン・ショック等による経済変動に加え、近年では、新型コロナウイルス感染症による大きな影響を受けている。
- ◆ その一方で、人口や産業の集積や、質の高い教育環境と良質な住宅ストック、豊かな食と文化、都市と自然の近接性、充実した交通インフラなど、新時代の成長エンジンのコアとして、阪神・淡路ベイエリアの持つポテンシャルは大きい。
- ◆ おりしも、2025年大阪・関西万博の開催は、関西が世界の関心を集める好機となる。社会潮流の変化も踏まえながら、この地にある様々な資源、ポテンシャルを最大限に活用し、阪神・淡路ベイエリアの活性化を促すとともに、兵庫全体への波及、さらには関西・瀬戸内圏の発展へとつなぐ必要がある。
- ◆ こうしたことから、対象7市及び産学の参画を得て、阪神・淡路ベイエリアの新たな成長への羅針盤として基本方針を策定し、躍動する兵庫の実現を目指す。

2 基本方針策定の視点

2025大阪・関西万博を契機に世界中から人・モノ・投資を呼び込む

各地域の強みや特色を活かした持続可能なビジョンを描く

- 健康医療、次世代エネルギー、物流、観光、海洋レクリエーションなど、各地域の強みを活かし、関係各市のビジョン・計画と整合性をとり、相互交流・融合する持続可能な地域の将来像を提示する。

地域の有機的な連携により、圏域経済の浮揚を目指す

- 地域の強み・個性を活かし、先端産業の集積や国内外からの誘客促進など、人・モノ・投資が集まる地域を創出する。
- 人口流出対策としての雇用重視の広域経済施策や、対内投資を阪神・淡路ベイエリアに呼び込むための施策などを展開し、県内各地・大阪湾・瀬戸内への波及効果を狙う。

従来とのやり方にとらわれない新しい発想や手法を取り入れる

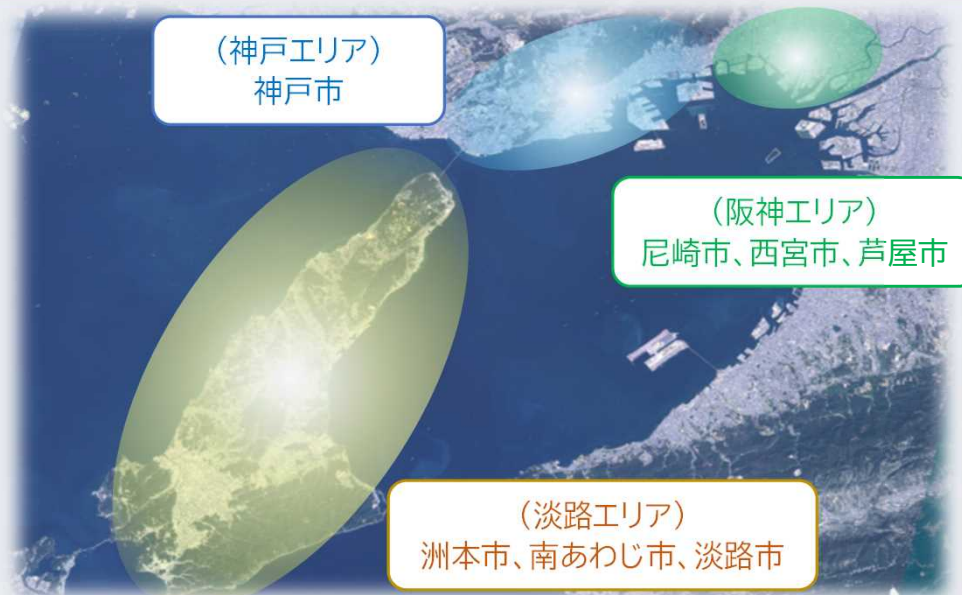
- 世界中の人が兵庫に来て共にチャレンジする場を創出するため、産学公民連携により、従来とは異なるイノベティブな発想を活かすことができる仕組みをつくり、阪神・淡路ベイエリア活性化を促進するプロジェクトを実施する。

兵庫県域の大阪湾ベイエリア(以下、阪神・淡路ベイエリア)における将来像を示すとともに、各地域のポテンシャルを活かしたさらなる活性化に向けた各取組の基本的方向性を示す

3 対象エリア

神戸エリア:神戸市
 阪神エリア:尼崎市、西宮市、芦屋市
 淡路エリア:洲本市、南あわじ市、淡路市

阪神・淡路ベイエリアにとどまらず、本方針に基づくプロジェクト実施を通じて、ベイエリアと県内各地や大阪湾・瀬戸内を結び、さらなる広域連携を推し進めていく



4 目標年次

概ね、2040年頃の兵庫の姿を実現するために取り組むべき方策として策定



5 バイエリアの強み(ポテンシャル)

関西3空港、高速道路網、東西鉄道網などの広域交通網の充実

- ◆ 関西3空港、高速道路網、阪神間東西の鉄道網等、交通基盤が充実している。
- ◆ 2030年前後には神戸空港の国際定期便就航が予定されており、新たに訪日外国人の玄関口が兵庫県内に設けられるという大きな好機が到来すると期待されている。
- ◆ 大阪湾岸道路西伸部や名神湾岸連絡線の整備により、新たな道路ネットワークが形成され、渋滞緩和や物流の効率化など、多大な経済効果が見込まれる。
- ◆ 淡路島は、大阪湾と瀬戸内を結ぶ重要な地点に位置しており、海上交通における関西と瀬戸内との交流の中継拠点としてのポテンシャルを有している。

医療・航空・水素などの多様な新技術を持つ企業が集積

- ◆ 神戸医療産業都市において、公民学の連携による研究開発を推進するとともに、人材育成等に取り組んでいる。
- ◆ 航空機産業の集積する兵庫県において、ドローンの社会実装を目指すことを目的としたドローンサミットを開催した。
- ◆ 神戸港において、水素のサプライチェーン構築に向けた実証事業を行っているほか、水素等次世代エネルギーの供給インフラ整備を進めている。



(第1回ドローンサミット)

地域における醸成された文化的・歴史的背景やストーリー性

- ◆ 阪神地域は、明治時代の鉄道開通とともにモダンにして豊かな郊外文化が花開き、食、建築、芸術等様々な分野でモダニズムを先進的に受容し、和洋折衷を旨とする独自の文化「阪神間モダニズム」が醸成されてきた。
- ◆ 淡路地域は、古事記や日本書紀において日本で最初に生まれた“はじまりの島”とされており、国生み神話は日本遺産に指定されている。また、万葉集などの和歌で海や景観が詠われるなど、古来、自然の豊かさが人々に親しまれてきた。

【対象の地域】対象地域の7市には、人口や総生産等の多くが集中

	面積 (令和3年度)	人口 (令和2年度)	県内総生産(名目) (令和元年度)	観光地入込客数 (令和元年度)
県全体	約8,400km ²	約546万人 【全国7位】	22.2兆円 【全国6位】	1.37億人
バイエリア 7市	約1,322km ² [16%]	約269万人 [49%]	11.1兆円 [50%]	0.63億人 [46%]

関西と瀬戸内を繋ぐ結節点としての優位な立地特性

- ◆ 日本の経済を支えた産業風土の厚み、関西と瀬戸内に隣接する地勢的優位性から、関西圏域の核心と大きなポテンシャルを有している。
- ◆ イノベーション拠点となりうる大学や学術・研究機関等が数多く立地している。加えて、淡路島では島外資本の積極的な観光分野への投資が行われ、淡路島への注目度が高まっている。
- ◆ 神戸空港を中心として、直径50kmの小さな円のなかに、淡路島、大阪・関西万博の会場となる夢洲、I R構想エリア、医療産業都市、関西国際空港、テーマパーク等の大型集客施設が入るポテンシャルに溢れるエリアとなっている。



(大阪・関西万博会場)

国連機関や国際関係機関などの国際交流基盤の集積

- ◆ 人類の健康をテーマに研究を行う「WHO神戸センター」、閉鎖性海域の環境保全に取り組む「国際エメックスセンター」、震災の経験と教訓をもとに防災に取り組む「アジア防災センター」などの国連機関や国際関係機関が集積している。
- ◆ 1868年(明治元年)の神戸港開港以来、国際性の高い地域として、外国・外資系企業も多数立地するほか、外国人学校や外国語対応が可能な多数の医療機関など、外国人にとって暮らしやすい生活環境が整っている。

世界の潮流となる創造的復興の取組、備える支えるつなぐの視点による社会基盤整備

- ◆ 平成7年「阪神・淡路大震災」からの復興に際して、兵庫県は、単に震災以前の状態を回復するだけでなく、新たな視点から都市を再生する「創造的復興」を進めてきた。
- ◆ 創造的復興の考え方は、2015年の第3回国連防災会議において、「ビルドバックベター」として国連文書に採択され、世界標準の言葉となった。
- ◆ 震災の経験と教訓を次世代に継承・発信し、近い将来に発生が懸念される東南海・南海地震など今後の規模災害に備えた減災・復興対策などについて、兵庫が培ってきた防災・減災の知恵と技術が世界中の安全を守るために活かされている。



(人と防災未来センター)

6 基本方針(コンセプト)

阪神・淡路バイエリア・アーク構想 ～ ダイナミック ベイ プロジェクト ～

2025年大阪・関西万博開催、2030年前後の神戸空港国際化等のインパクトを見据えつつ、阪神・淡路バイエリアの将来像と、バイエリア活性化に向けた多様な主体による取組の基本的な方向性を示す長期構想を策定する。



阪神・淡路バイエリア・アーク構想 イメージ図

【阪神・淡路バイエリア・アーク構想について】

- ◆阪神・淡路バイエリアを『アーク(フランス語arc-en-ciel:七色の虹、英語ark:弧)と位置づけ、エリア内の7市の連携をイメージ。
- ◆大阪広域バイエリアの将来像「クレセントリンク・おおさかベイ」とも連携し、アークとクレセントでバイエリアを成長エンジンのコアと位置づけ、バイエリア全体の魅力を高めていく。
- ◆阪神・淡路バイエリアにとどまらず、本方針に基づくプロジェクト実施を通じて、**バイエリアと県内各地や大阪湾・瀬戸内を結び、さらなる広域連携を推し進めていく。**

目指す姿

- ◆ 世界から人・モノ・投資を呼び込み、ものづくり産業の革新を促すとともに、経済・社会活動のイノベーションを創出し、新たな産業やビジネスモデルが立ち上がる**創造的なエリア**として、**国際レベルでの競争力を高める。**
- ◆ また、社会、経済、環境、いのち(身体、精神)の豊かさが共存する**ウェルビーイング(幸福・健康)**で**サステイナブル(持続可能)**なエリアとして、**新たな価値、ライフスタイルを創造・発信する。**
- ◆ こうした変革は、産学公民が目標を共有し、協働して取組むことで生み出され、さらに**新たな資源を呼び込んで加速する。**また、阪神・淡路バイエリアを起点に、県内各地はもとより、**関西・瀬戸内などの地域を広く巻き込みながら連鎖的かつダイナミックに展開される。**

各地域の目指す姿

バイエリアには個性と強みを持つ地域が連担する。各地域がその強みを活かすとともに、**相互に補完、連携**することで、**圏域全体の新たな価値や魅力、卓越した総合力の創出**をめざす。

神戸エリア

チャレンジエリア

－新たなチャレンジを促しイノベーションを創出する－

神戸空港の国際化も見据えながら、ウォーターフロント再開発等の先導的プロジェクトを基盤に、民間の活力を呼びこみ、**阪神・淡路バイエリアの活性化を牽引する成長エンジンのコア**とする。**多様なプレーヤーが滞在、交流し、常に新たな挑戦が沸き上がるエリアを創出する。**

阪神エリア

万博のレガシーを実装するエリア

－次世代へと繋ぐ新たなライフスタイルを創造する－

生活と産業、都市と自然等、多様な要素が近接・混在する環境や、民間中心で独自の文化を醸成してきた風土、豊かな教育環境等を活かして、**新たなライフスタイル・エリアを創造する。**大阪・関西万博が掲げる**「いのち輝く未来社会」を実装し、レガシーとして次世代へと引き継いでいく。**

淡路エリア

生命あふれる原点回帰エリア

－国内外からの人の流れと交流を生み出す－

神戸大都市圏への近接性、豊かな食や自然、地域に息づく歴史・文化を活かして、**国内外からの人の流れと交流を生み出す。**人とのふれあい、本物の体験等を通じて、**暮らしの本質を思い出し、原点へと立ち返る場や機会を創出する。**

地域の強みの発揮とオープンな連携による相乗効果の拡大

- ◆ 地域の強みや特性、資源を活かしつつ、各市のまちづくりの方向に合わせた人・モノ・投資を呼び込むプロジェクトを継続的に検討、実施していく。さらに、その過程で生まれた強みを軸として新たなプロジェクトを生み出す、好循環の創出を図る。
- ◆ 地域横断的な取組や、対象エリア7市、県内各地、さらには大阪湾や瀬戸内での先駆的な取組の相互補完・連携を通じて、プロジェクトの効果を高める。

オープンガバメントの推進、産学公民連携によるプロジェクトの展開

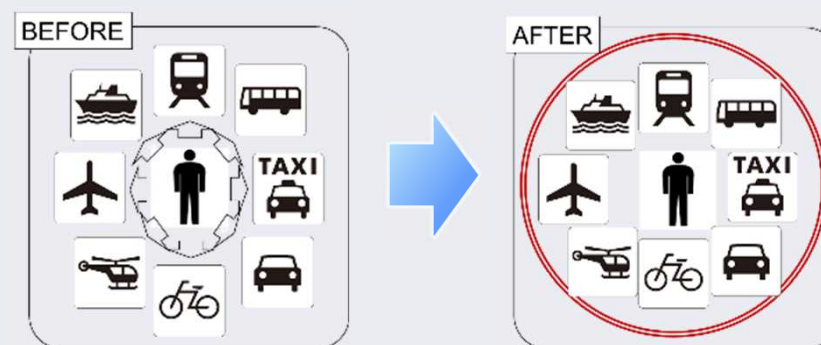
- ◆ 誰でも容易に情報にアクセスでき、自由な発想や議論が生まれる礎を築くため、オープンデータ化を推進する。
- ◆ 産学公民の多様な主体が自由闊達に議論できる場や、プレーヤー同士のマッチング機会を作り出すことで、各エリアの課題解決に効果的なプロジェクトの検討及び実施を促進する。

SDGsへの先導的取組とDXの推進

- ◆ 阪神・淡路ベイエリアの活性化においては、経済、社会、環境の3つの側面においてバランスのとれた持続可能な開発をめざす。このため、県内自治体と企業、団体、学校、研究機関、県民等、多様な主体の連携のもとに、SDGsの達成に先導的に取り組む。
- ◆ 行政、暮らし、産業のシームレスなデジタル化を進め、多様な主体との連携を深化することにより、社会的課題の解決に向けて、オープン・イノベーションの仕組みを創出する。
- ◆ IoT、AI、ビッグデータ等を活用したDX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進によって、産業や科学のイノベーションを促すほか、健康で快適な暮らし(wellness)と、心豊かな暮らし(Well-Being)の実現をめざす。

サステナブルでシームレスな陸海空交通ネットワークの充実

- ◆ 人・モノの交流の基盤となる鉄道、道路、空港、港湾等を充実、シームレスに結ぶとともに、MaaS(Mobility as a Service)の実現等によって、移動の最適化を図る。
- ◆ 空飛ぶクルマやグリーンスローモビリティ*などの次世代モビリティを先導的に導入するとともに、ヘリコプターサービスやビジネス・プライベートジェット、スーパーヨットなど、富裕層の移動にも視野に入れた交通・インフラの整備を進める。



▲ MaaSのイメージ

*グリーンスローモビリティ (出典:国土交通省)

- 時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称。
- 導入により、地域が抱える様々な交通の課題の解決や低炭素型交通の確立が期待される。

民間のチャレンジを引き出す基盤整備

- ◆ 民間の活力・チャレンジを最大限に引き出すため、必要な規制緩和や制度の見直し、政策的誘引や情報提供などについて柔軟かつ迅速に検討を進める。
- ◆ 必要な施設・インフラ整備、行政用地の活用促進等を進め、民間が参入しやすい環境を整備する。

ウォーターフロント

三宮周辺・ウォーターフロント等の再開発

- ✓ 神戸の玄関口である三宮周辺地区のバスターミナル、クロススクエア整備をはじめ、神戸港周辺のウォーターフロントや須磨海岸で再開発事業を推進



アクセス

神戸空港の国際化
陸海空の交通の結節点

- ✓ 東西南北の結節点となる道路網
- ✓ 新幹線・在来線が接続する鉄道網
- ✓ 世界に開かれた海
- ✓ 2030年前後に国際化する神戸空港等交通網が充実



産業

先端産業や研究機関の集積

- ✓ アンカー神戸を核とした起業家育成に取り組むほか、市内大学や企業と連携し、起業から成長までを支援
- ✓ 国際社会への貢献、経済活性化、福祉の向上を目的とした医療産業都市を推進



環境

先導的脱炭素の取組

- ✓ 水素のサプライチェーン構築に向けた実証事業を実施
- ✓ 神戸港カーボンニュートラルポート形成計画を策定し、水素等次世代エネルギーの供給インフラを整備



出典:HySTRA

観光

山や海の眺望や旧居留地等の異国情緒あふれる街並み

- ✓ 開港以来、海と山に囲まれた豊かな自然環境の中で、国際性や多様性を育みながら、新しい価値や生活様式を創造
- ✓ 外国人居留地やメリケンパーク、ハーバーランド等のスポットが多く存在

国内外への玄関口となる
魅力あふれる
ウォーターフロントの形成

- ◆ 万博等を契機に、国内外の人が集い、交わる世界的な交流ゾーン「阪神・淡路ベイエリア」の玄関口として、魅力と活力溢れるウォーターフロントを形成

神戸空港国際化を見据えた
広域交通アクセス網の拡充

- ◆ 神戸空港の国際化を見据えて、空港へのアクセスを向上
- ◆ インバウンドを県内に波及させるため、神戸空港から県内地域への広域的な交通ネットワークを形成
- ◆ 海上交通の充実を図るため、新たな航路を創出

阪神・淡路ベイエリアの成長
エンジンとなる新産業・
イノベーションエリアの創造

- ◆ 開放的な風土や最先端技術産業の集積、柔軟な受け入れ環境を活かして国内外からの企業人材や投資家の流入を促進
- ◆ 創造的人材が集い、交流することで、新たな価値やイノベーションの場を創出

港湾エリアを核とした
脱炭素・カーボンニュートラル先導エリアの形成

- ◆ 神戸港等において脱炭素・カーボンニュートラルの先導的取組を推進。その成果を世界に向けて発信

高いブランド力を生かし
高付加価値・滞在型観光を
牽引するエリアを形成

- ◆ 充実した交通アクセス網を基盤に、近接する海・山・都市景観、屈指の食や温泉、美しい夜景など、世界に誇る資源を生かした高付加価値型ツーリズムを展開
- ◆ MICE開催による経済波及効果や都市ブランドの向上のため、国際会議・イベントを誘致

【西宮・芦屋エリア】

強み (ポテンシャル)

文化・スポーツ

醸成された文化と芸術

- ✓ 日本と西洋が交錯し、ハイセンスでモダンな独自のライフスタイル「阪神間モダニズム」
- ✓ 世界的に再評価を受ける「具体」美術。多くの芸術家を輩出した独自の風土



住環境

良質な住環境

- ✓ 気候温和な自然環境と交通の利便性が良い立地条件を活かした、良質な住宅地として街が形成



自然環境

都心部に残る砂浜等の自然環境

- ✓ 阪神間にある貴重な海浜（芦屋浜、御前浜・香櫛園浜、甲子園浜等）
- ✓ 鳴尾川の南西側は、関西でも有数の野鳥の飛来地として、浜甲子園鳥獣保護区特別保護地区に指定



観光・交流

マリナー等のレジャーやマリンスポーツの活動拠点

- ✓ 臨海部には、国内最大級の収容能力700隻の新西宮ヨットハーバーをはじめ、西宮ボートパーク、芦屋マリナー等のマリナーが立地
- ✓ 砂浜や安定した水域を活用し、カヌーやヨット等のマリンスポーツが盛んに実施



産業

産業の集積

- ✓ 物流施設や食品関連企業、冷蔵冷凍倉庫等が集積
- ✓ 全国的に高いシェアを占める伝統ある酒造業



取組の方向性

芸術・文化、スポーツ・レクリエーションを通じた臨海地域のリ・ブランディングと集客・交流空間の形成

- ◆ 「具体」の再発信など、層の厚い芸術・文化資源を生かした地域のブランディング
- ◆ スポーツ人口の拡大、スポーツを通じた健康づくりや地域の活性化

良質な住環境の保全と良好な住宅ストックの活用による新たなライフスタイルエリアの創造

- ◆ 豊かな住・教育環境を背景とする「住みやすさや暮らしやすさ」を発信
- ◆ 万博のレガシーとなる新しいライフスタイルを創り出すエリアを形成

都市部に残る貴重な自然環境・生態系の保全と親水空間の創造

- ◆ 貴重な自然環境や生態系を保全するとともに、環境学習等、親水空間として活用

阪神・淡路ベイエリアでのマリン・レジャー及びアクティビティ拠点の形成

- ◆ 阪神間に残された天然の砂浜等を活用し、新たな賑わい・交流拠点を創出
- ◆ インバウンド、富裕層も見据え、神戸・淡路地域と連携しつつ、マリンレジャー拠点を形成

集積する産業群のさらなる振興と新たな担い手の創出

- ◆ 飲食品産業等のブランド力の向上
- ◆ 既存企業等のイノベーション支援

【尼崎エリア】

強み（ポテンシャル）

観光・交流

大阪や万博会場からの近接性

- ✓ 大阪府に隣接し、国道2号、国道43号等の幹線道路や、阪神高速神戸線・湾岸線、複数の鉄道路線網など東西のアクセスが充実



変化を続ける工場地帯

- ✓ 臨海部は工業専用地域であり、多数の製造業や物流施設が立地
- ✓ 臨海部の尼崎運河では、環境改善と賑わい創出の取組を推進



産業

脱炭素の取組

- ✓ 令和4年4月に脱炭素先行地域に指定され、2050年カーボンニュートラルに向け、民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロを実現し、運輸部門等についても、国の目標と整合する削減を実現



適切な土地利用

- ✓ 東海岸町地区では、埋立がほぼ完了し、今後広大な用地が分譲予定
- ✓ 新たな浚渫土砂の受け入れ場所を確保することで、さらなる土地利用が可能



自然環境

尼崎21世紀の森構想の推進

- ✓ 臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、陸域の環境負荷低減に加え、水と緑豊かな自然環境を創出し、環境共生型のまち（森）づくりを推進



取組の方向性

万博会場との近接性を活かした情報発信・交流ゾーンの形成

- ◆ 大阪・関西万博会場である夢洲との距離の近さを活かした集客・情報発信事業の展開
- ◆ 市民の憩い、県内外の人々との交流・賑わい空間の創出

産業と地域が共生する新たな生産・物流ゾーンの形成

- ◆ 工場地帯としての機能を活かしつつ、民間活力を導入した賑わい・誘客を推進
- ◆ 工場地帯での交流を創出し、産業と地域が共生する新しい生産・物流ゾーンを形成
- ◆ まちの魅力向上による交流・定住人口の拡大

環境に配慮した次世代型工業地帯の形成

- ◆ 脱炭素社会の実現に向け、民間事業者の脱炭素経営を促進
- ◆ 環境を切り口とした民間事業者の競争力強化、環境と経済の両立を推進

高付加価値産業の集積や研究イノベーション拠点の形成

- ◆ RORO船ターミナルを整備してモーダルシフトを推進し、効率的かつ低炭素な輸送に転換することで、生産性の向上や輸送品質の向上など、高付加価値を生み出す物流を実現
- ◆ 次世代モビリティの先導的な実証や開発など、イノベーション拠点となる産業を集積

SDGsの達成を先導する環境共生型まちづくりの展開

- ◆ 臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、陸域での環境負荷低減、ゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境を創出
- ◆ 環境共生型のまちづくりを推進し、あわせて地域内外の人の交流を創出

強み
(ポテンシャル)

観光・地域資源の活用

くにうみ神話の歴史、文化、豊かな観光資源

- ✓ 淡路島は「古事記」や「日本書紀」において、日本で最初に生まれた「はじまりの島」とされている
- ✓ 瀬戸内海国立公園・鳴門海峡の渦潮など豊かな観光資源
- ✓ 大鳴門橋自転車道の開通(2028年度予定)



アクセス

都心からのアクセス性

- ✓ 神戸淡路鳴門自動車道で本州・四国と結ばれ、洲本から神戸・四国まで約1時間以内で移動できる、恵まれた立地環境
- ✓ 岩屋港、淡路交流の翼港、津名港、洲本港、福良港など、旅客船の受入れ設備が整備



環境

淡路環境未来島構想の推進

- ✓ 淡路島の環境(高い食料自給率、温暖で豊富な日照時間等)を活かした、エネルギーが持続する地域や、農と暮らしが持続する地域に向けた取組の推進を実施



産業

豊かな食と自然に恵まれた良好な風土、職住の近接

- ✓ 山や海の幸に恵まれた御食国
- ✓ 島内自給率が高く、玉葱、とらふぐ、淡路ビーフ等の淡路ブランド食品
- ✓ 職住近接でワーケーションも可能な、自然豊かで良好な風土
- ✓ 本社機能移転等の動き



取組の方向性

インバウンドや富裕層も見据えた
関西圏域屈指の観光・交流エリアの形成

- ◆ 歴史や伝統文化、食と健康、自然、非日常感など、淡路ならではの強みを生かした観光の高付加価値化を推進
- ◆ 神戸空港国際化も見据え、海外富裕層観光の取込みに向けたラグジュアリーホテルの誘致、シームレスで快適な移動手段の確保等、受け入れ環境の整備を促進
- ◆ 関西・瀬戸内圏等とも連携したサイクルツーリズム、ブルーツーリズムやマリンレジャー等、新たなツーリズムの展開
- ◆ 大阪・阪神間等、大都市圏との近接性を生かした交流人口の拡大

人の流れを円滑にする
新たな交通ネットワークの形成

- ◆ 島内交通の連携強化や次世代モビリティ導入の検討など、2次交通の課題解決
- ◆ 関西・瀬戸内圏を見据え、多様な移動手段を導入した広域交通ネットワークの形成

最適なエネルギーミックス
によるエネルギー自給
モデルの創出

- ◆ 再生可能エネルギーの循環活用の促進
- ◆ 地域における水素の製造・利活用モデルの推進

well-beingを重視し、
産業が持続的に発展・
循環する地域の形成

- ◆ 農畜水産物の6次産業化等による高付加価値化及び国内外への流通促進
- ◆ ICTやロボット技術を活用したスマート農業の推進
- ◆ 心・体・社会の健康を目指す「ウェルビーイング」に関わる新しい産業の創出

8 全てのエリアに共通する取組の方向性

取組の方向性

兵庫県の取組

産業

阪神・淡路バイエリアに**新たな産業を呼び込むための施策展開**

- ◆ プロジェクトを民間企業等が実施するにあたり、土地利用計画や規制の見直しが必要になる場合は、関係行政機関が規制緩和、行政の施設整備、行政用地の活用促進等により環境を整備し、実施を後押し

民間のチャレンジを引き出す制度改正

産業立地条例の改正(令和5年度)

(1) 支援内容の見直し

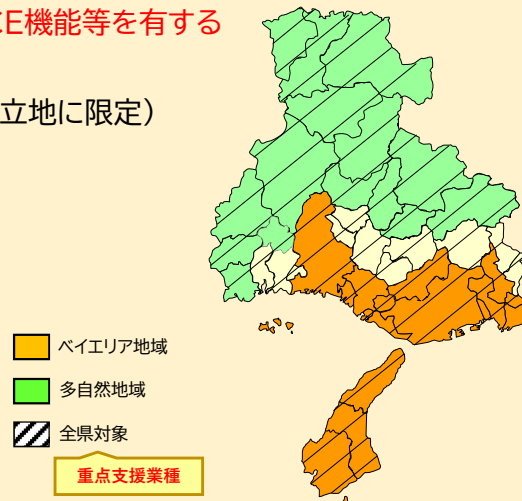
「成長産業の立地促進」「投資促進地域への産業集積」

- ① **バイエリア地域**と多自然地域は、通常3%の設備補助率を**5%**に設定
- ② **成長産業分野**については、設備補助率を**全県7%**、特に**水素関連は10%**

(2) 支援対象施設の見直し

「高級ホテル立地による都市のブランド力向上」

- ・支援対象施設に**MICE機能等を有する高級ホテル**を追加
(**バイエリア地域**への立地に限定)



アクセス

人の流れを円滑にする新たな**陸・海・空の交通ネットワークの形成**

- ◆ 大阪・関西万博や神戸空港の国際化などに伴う国内外からの誘客拡大を見据え、船舶特有の非日常感や船上でのコンテンツを付加価値としたクルージングMICEを実施

海上交通の促進

クルージングMICEの取組

(1) 実証実験の実施

① 令和3年度

- 大阪航路(神戸港中突堤～大阪市ユニバーサルシティポート)
・船上での意見交換や懇談を実施



② 令和4年度

- 淡路航路(HAT神戸～淡路交流の翼港)
・海上交通の新たな可能性を探る船上コンテンツの実施 (学生との意見交換)
(伝統芸能「能」の体験・鑑賞)



(R4.6.27 海上交通実証実験)



(船上での「能」の体験・鑑賞会)

(2) クルージングMICE奨励モデル事業の実施

○ 令和5年度

- 万博を見据えた誘客促進及び海上交通の充実を図るため、船上での会議開催等を行うモデル事業を支援

9 基本方針の実現に向けて

プロジェクトの検討

産学公民による連携

産学公民のそれぞれがバイエリア活性化という1つの目標を共有し、多様な主体と時間的、場所的、組織的制約を超え、協働してプロジェクトを検討し、新たなイノベーションを生み出す。

プロジェクトの実施

行政による環境整備

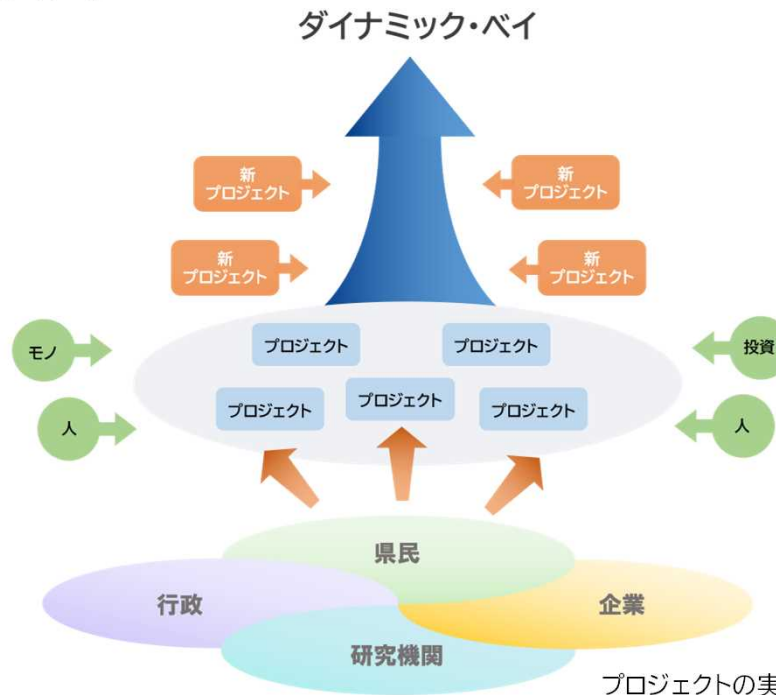
課題解決に向けたプロジェクトを民間が実施するにあたり、土地利用計画や規制の見直しが必要になる場合は、関係行政機関が規制緩和などにより実施を後押しする。

また、行政の施設整備や行政用地の活用促進により、民間が参入しやすい環境を整備する。

プロジェクトの実施による人・モノ・投資の呼び込み

各プロジェクトの実施により相乗効果を生み出し、バイエリアの魅力が高まって、人・モノ・投資を呼び込む。

新たな人・モノ・投資が集まることで、新たなプロジェクトが検討・実施され、さらなる効果を生み出していく。



時間軸を意識

- 万博開催(令和7(2025)年)までは、即効性がある人を呼び込むプロジェクトを先行して実施する。
- 並行して、万博以降を見据えて実施までに協議調整など、期間を要するモノと投資を呼び込むプロジェクトを検討する。

令和5(2023)年

【2023年～2025年 大阪・関西万博開催まで】
万博を好機にバイエリアの魅力を世界にアピール

兵庫県域の大阪湾バイエリア活性化基本方針策定

- 短期的には、誘客・交流の活性化を軸に、万博会場と県内各地を結ぶ海上交通の充実や、地域間を周遊する観光コンテンツの造成、運河や臨海部を活用したイベントコンテンツの展開等のプロジェクトを展開します。
- 並行して、中長期的に実施する、モノや投資を呼び込むプロジェクトに着手します。

令和7(2025)年

大阪・関西万博開催

- 「People's Living Lab 未来の実験場」をコンセプトとした博覧会
- 国内外から2,820万人もの来場者が見込まれ、世界がこのバイエリアに注目

令和8(2026)年

【2026年以降～ 大阪・関西万博以降】
東西日本を結ぶ大交流圏の中心結節点としてグローバルに躍動

- 中長期的なプロジェクトを実施し、エリア全体の訴求力を高め、人・モノ・投資を持続的に呼び込みます。
- そのために、神戸空港の国際化、道路や港湾インフラの整備など、社会情勢に応じた土地利用計画や規制の見直しを実施し、民間のチャレンジ意欲を引き出します。
- 大阪湾のみならず、瀬戸内からも人・モノ・投資を呼び込みます。
- 将来的には、瀬戸内の東の玄関口として、リニア開通で形成されるスーパーメガリージョンの西の玄関口として、そして日本の東西を結ぶ結節点として、国内の求心性はもとより、グローバルに躍動します。

【目標年次：2040年頃】

阪神・淡路バイエリアの持続的な賑わい、活性化を実現

10 広域的な連携に向けて

海から空への展開

- クルーズ船等でバイエリアを来訪する人達が、バイエリアを拠点として、ヘリコプターや空飛ぶクルマ等の多様な交通モードを活用し、県内各地を自由に周遊する
- 移動そのものがアクティビティとなり、新たな価値を提供するとともに、バイエリア内外への広域的な誘客を促進する

[海から空への展開に向けた取組]

2023年度:インバウンドの本格的回復に向けた旅行商品の開発



スーパーヨット



出典:経済産業省



提供:ひょうご観光本部
ヘリ運航で巡る観光ルートの例
(R4.10月実証実験)

新たなグランドデザインの策定

- 基本方針に基づくプロジェクトを実施することにより、関西全体に大阪湾全体の新たなグランドデザイン策定の機運を醸成する
- 関係府県や関係団体と連携のうえ、大阪湾全体のバイエリアを活性化する

関西・瀬戸内の大交流圏の形成

- 2025年の大阪・関西万博の開催や神戸空港の国際チャーター便就航は、国内外からの人の交流を回復し、さらに拡げる絶好の機会である
- 2025年は瀬戸内国際芸術祭の開催も予定されており、関西と瀬戸内の結節点に位置する兵庫県が集客力の高い両エリアをつなぐことで、国内外から多くの人・モノ・投資を呼び込む新たな大交流圏を形成する

[大交流圏形成に向けた取組]

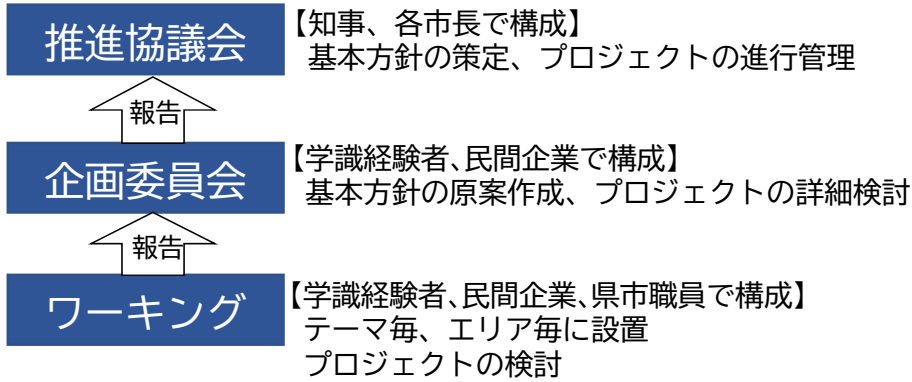
- 姫路－犬島(岡山県)－直島・豊島(香川県)を巡る実証実験(2023年度)
- 大鳴門橋の自転車道開通を契機とした、瀬戸内沿岸を自転車で周遊するサイクルルートの形成(2028年度)



関西・瀬戸内大交流圏のイメージ

11 基本方針の検討体制及び策定経緯

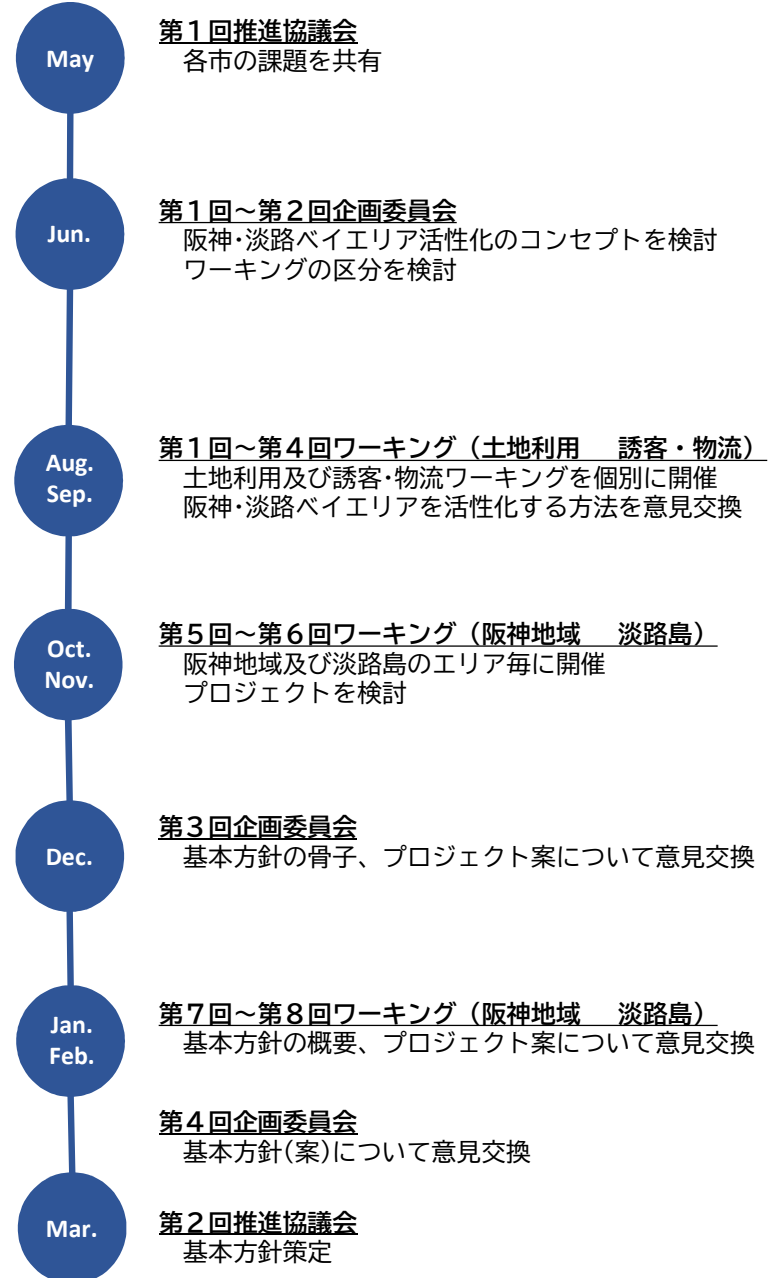
体制



大阪湾バイエリア活性化推進協議会企画委員会 委員名簿

氏名	所属
委員長 上村敏之	関西学院大学
副委員長 橋爪紳也	大阪公立大学
赤澤宏樹	兵庫県立大学
石川路子	甲南大学
織田澤利守	神戸大学大学院
木崎尚文	一般社団法人日本旅行業協会
多田真規子	西日本旅客鉄道株式会社
榆井義丈	株式会社みなと銀行
林俊武	株式会社三井住友銀行
水方秀也	株式会社竹中工務店

経緯(令和4年度中)



1 貧困をなくそう



17 パートナーシップで目標を達成しよう

16 平和と公正をすべての人に

15 陸の豊かさも守ろう

14 海の豊かさも守ろう

2 気候をゼロに

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

13 気候変動に具体的な対策を

3 すべての人に健康と福祉を

基本方針に基づき 実施するプロジェクト

12 つくる責任 つかう責任

4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

阪神・淡路バイエリアの主な社会基盤整備の状況およびプロジェクト



バイエリア活性化を促進するプロジェクト群

[神戸]

- ① 新たなアリーナの活用
- ② 都心に近接した水域の活用
- ③ 須磨再開発を通じた賑わい創出
- ④ 海上交通の活性化
(サイクルツーリズムとの連携)
- ⑤ 神戸-大阪新規航路の就航

[阪神]

- ⑥ マリンスポーツの認知度向上及び賑わいづくり
- ⑦ 兵庫県発祥の美術「具体」の活用による地域のブランド力向上
- ⑧ 新西宮ヨットハーバーの活用
- ⑨ 工場地帯の特長を活かしたイベント実施
- ⑩ 尼崎運河の魅力創出
- ⑪ 万博を契機とした兵庫の魅力発信
- ⑫ 武庫川下流部の干潟再生による生物多様性の向上
- ⑬ 臨海部での脱炭素の取組
- ⑭ 次世代モビリティの実証実験

[淡路島]

- ⑮ ホテルと食の人材育成
- ⑯ ラグジュアリーホテルの誘致
- ⑰ 個性的な宿泊施設の誘致
- ⑱ 夢舞台温室(あわじグリーン館)の展開
- ⑲ 公共施設の民間活用
- ⑳ 大型クルーズ船の誘致
- ㉑ 大鳴門橋周辺の賑わい創出
- ㉒ 観光ガイドの育成
- ㉓ 徳島空港アクセスバスの実証運行
- ㉔ 淡路交流の翼港の活用
- ㉕ 次世代モビリティの実証実験
- ㉖ 夢舞台サステナブル・パークでの2030年カーボンニュートラル

[大阪湾全域]

- ㉗ クルージングMICEの実施
- ㉘ 次世代モビリティの実証実験

基本方針に基づき実施するプロジェクト

概ね2025年大阪・関西万博を目処に下記のプロジェクトを実施するとともに、更なるプロジェクトの実施についても継続して検討を行う

神戸エリア



出典:エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社

① 新たなアリーナの活用 (2025年~)



2025年4月開業予定のアリーナでスポーツ興行や音楽興行、MICE等を開催

ウォーター
フロント



出典:国土交通省

② 都心に近接した水域の活用 (2025年~)



親水空間の創出、中~大型クルーザーを中心としスーパーヨットにも対応できるマリーナ

ウォーター
フロント

ウォーター
フロント

③ 須磨再開発を通じた賑わい創出 (2024年~)



水族館や海での体験アクティビティなどによる、海とつながる空間を創出



出典:神戸市

観光

④ 海上交通の活性化(サイクルツーリズムとの連携) (2023年~)



神戸空港や市内各地を結ぶ航路を検討し、市内周遊を促進。須磨から淡路を結ぶ航路を検討し、アワイチなどサイクルツーリズムの振興に寄与

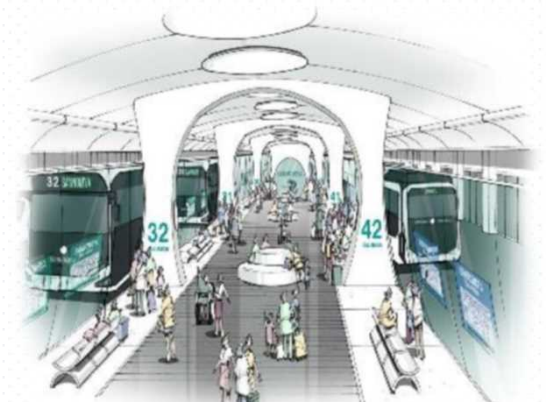


アクセス

⑤ 神戸-大阪 新規航路の就航 (2023年~)



神戸港から大阪方面への新規航路を開設



※各プロジェクトに記載の年は着手年度を示す。

基本方針に基づき実施するプロジェクト

阪神エリア



出典:西宮市体育協会

6 西宮市・芦屋市
マリンスポーツの認知度向上及び賑わいづくり (2025年~)

カヌーやヨット等のマリンスポーツを一体的にPRし、都市近郊の体験エリアとして認知度を向上。大学や高校の活動拠点であることを活用し、賑わいを創出

文化・スポーツ



出典:兵庫県立美術館

7 芦屋市・西宮市・尼崎市
兵庫県発祥の美術「具体」の活用による (2025年~)
地域のブランド力向上
万博期間中に所蔵美術館による作品展示やアートフェスティバルを開催し、誘客を図るとともに地域のブランド力を向上

文化・スポーツ



8 西宮市
新西宮ヨットハーバーの活用 (2023年~)
スーパーヨットの寄港地とし、県内各地での食事や観光、物産購入等につなげる

観光・交流



9 尼崎市
工場地帯の特長を活かしたイベント実施 (2024年~)
工場敷地等で若者によるフェスを開催し、若者が万博につながる機会を創出

文化・スポーツ



10 尼崎市
尼崎運河の魅力創出 (2023年~)
現在行われている運河クルーズなどに加え、SUP活動の拠点整備やアート等の活動を誘致。運河の環境改善や尼崎21世紀の森構想の成果を発信

文化・スポーツ

観光・交流

11 尼崎市
万博を契機とした兵庫の魅力発信 (2025年~)
万博会場外駐車場の隣接地で兵庫五国の魅力発信や環境改善の取組等をPR、キッチンカー等の飲食提供や物販も実施



自然環境

12 西宮市
武庫川下流部の干潟再生による生物多様性の向上 (2024年~)*
下流の潮止堰を撤去して干潟再生に取り組み、生物多様性の向上を図る。再生した干潟は、環境学習の場等として活用する ※2024年、治水対策として潮止堰撤去に着手予定



出典:中国地方整備局HP

産業

13 尼崎市
臨海部での脱炭素の取組 (2025年~)
脱炭素経営企業と連携し、EVバスを使用したオープンファクトリーや環境学習などを実施し、臨海部での脱炭素の取組をPR



出典:経済産業省

産業

14 尼崎市
次世代モビリティの実証実験 (2023年~)
・大型トラックを用いたレベル4自動運転の実証実験
・空飛ぶクルマの実現に向けた実証実験



出典:(株)三井物産

※各プロジェクトに記載の年は着手年度を示す。
※各プロジェクトに記載の自治体名は実施場所を示す。

基本方針に基づき実施するプロジェクト

淡路エリア



出典：淡路高校

淡路市
15 ホテルと食の人材育成 (時期未定)

ホスピタリティマネジメント専門の学校を整備し、ホテル人材を育成する。また、料理に関する学校を整備し、淡路島の食材を活用する料理人を育成し、地域活性化に繋げる

観光・地域資源の活用

淡路市・洲本市・南あわじ市
16 ラグジュアリーホテルの誘致 (時期未定)



外国人富裕層等に対応した施設やサービス水準を備えた宿泊施設を誘致

観光・地域資源の活用

洲本市・南あわじ市
17 個性的な宿泊施設の誘致 (時期未定)



多様な宿泊ニーズに対応し、プライベート感や非日常感のある別荘型宿泊施設を誘致

観光・地域資源の活用



出典：兵庫県立淡路夢舞台公苑温室「あわじグリーン館」HP

淡路市
18 夢舞台温室(あわじグリーン館)の展開 (2024年～)

万博に向け子供や若者が楽しみながらSDGsの理解を深める施設として展開

観光・地域資源の活用



出典：南あわじ市(辰美中学校)

洲本市・南あわじ市
19 公共施設の活用 (2023年～)

公共施設を、地元食材を用いる宿泊施設や、サイクリストや登山者などで賑わう交流施設として活用

観光・地域資源の活用

観光・地域資源の活用

洲本市
20 大型クルーズ船の誘致 (2023年～)



大型クルーズ船の誘致により、食事やアクティビティなどの直接的な経済効果だけでなく、関連産業の間接効果や、交流人口の増加を創出



出典：国土交通省

観光・地域資源の活用

南あわじ市
21 大鳴門橋周辺の賑わい創出 (2025年～)



大鳴門橋自転車道整備や道の駅うずしお改修(うずまちテラス整備)などにより、サイクリストや観光客の受入環境を強化し、サイクルツーリズム等による交流を促進



観光・地域資源の活用

南あわじ市
22 観光ガイドの養成 (2023年～)



国内及びインバウンド観光客のニーズに合わせ、島の魅力を伝えることができる観光ガイドを養成し、長期滞在や着地型観光を促進

アクセス

南あわじ市
23 徳島空港アクセスバスの実証運行 (2023年～)



徳島阿波おどり空港と南あわじ市を直接結ぶバスを運行し、首都圏等からのアクセス向上や交流人口の増加を促進



出典：南あわじ市 HP「広報南あわじ令和5年1月号」

※各プロジェクトに記載の年は着手年度を示す。
※各プロジェクトに記載の自治体名は実施場所を示す。

基本方針に基づき実施するプロジェクト

淡路エリア



出典：兵庫県立淡路夢舞台 HP

24 淡路交流の翼港の活用 (2023年～)



船舶の受入環境を向上させてクルーズ船を誘致し、島内観光の拠点として活用

アクセス



25 次世代モビリティ実証実験 (2023年～)



淡路交流の翼港からの二次交通対策として自動運転車両を導入し、夢舞台等へのアクセスに活用

アクセス

産業

26 夢舞台サステナブル・パークでのカーボンニュートラル (2022年～)



夢舞台サステナブル・パークを中心とするエリアが、2022年4月に環境省の脱炭素先行地域に選定され、2030年までに民生部門でのカーボンニュートラルを目指す



出典：淡路市

エリア全域

広域連携

27 クルージングMICE (2023年～)



船舶特有の非日常感や船上でのコンテンツを付加価値としたクルージングMICEを実施

- ◆ 神戸(中突堤、神戸空港)
－ 淡路島 (淡路交流の翼港、津名港、洲本港)
- ◆ 神戸(中突堤、神戸空港)
－ 大阪(夢洲、天保山)

【2023年度】

旅行会社等の民間企業主催によるモデル事業を実施



広域連携

28 次世代モビリティの実証実験 (2025年～)



水素を燃料にした高速船の活用に向けた実証実験

- ◆ 神戸(中突堤、神戸空港)
－ 淡路島 (淡路交流の翼港、津名港、洲本港)
- ◆ 神戸(中突堤、神戸空港)
－ 大阪(夢洲)



※各プロジェクトに記載の年は着手年度を示す。
※各プロジェクトに記載の自治体名は実施場所を示す。